

米子市の現状・調査結果のとりまとめと課題の方向性

	米子市の現状	市民アンケート調査 ※速報値	関係各課ヒアリング調査（主なプロジェクト）
人口等	<ul style="list-style-type: none"> ●将来的に、総人口は減少し、少子高齢化も引き続き進行すると予測 ●H27(2015年)とR27(2045年)の人口分布を比較すると、R27(2045年)では、特に米子市役所付近の中心市街地で人口が減少すると予測 ●S40のDIDは市役所周辺で、その後は少しずつ拡大し、H27には中央の市街化区域のほぼ全域 	<ul style="list-style-type: none"> ●回答者の年齢は60歳以上が過半数を占める ●米子市の居住歴は20年以上が約75%で、居住理由は「米子市に生まれ育った」や「結婚・出産」、「就職・転勤」など ●人口減少や高齢化が日常生活に与える影響として、「生活利便施設の撤退」や「社会保障費の増大」、「空き家や空き地の増加に伴う居住環境の悪化」などが懸念されている 	<ul style="list-style-type: none"> 【移住・定住】 ・移住定住推進事業（お試し住宅）、移住定住相談窓口の設置、まちなかデベロッパー事業、民間共同住宅建設事業、移住者からの相談窓口のワンストップ化ときめ細かな生活情報の提供
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ●米子境港都市計画区域（区域区分）と淀江都市計画区域が指定 ●土地利用の現況をみると、自然的土地利用は約61.0%、都市的土地利用（約39.0%） ●新築や農地転用の多くは市街化区域内で行われているが、一部市街化区域外で開発や転用が行われている ●市街化区域内を中心に、土地区画整理事業等の計画的な市街地整備が行われてきた ●空き家率は全国平均や県平均を上回り、市の西部では空き家数の多い地区が分布している ●市街化区域外では、大部分が農用地区域、地域森林計画対象民有林などに指定され、良好な農地や自然環境が保全されている 	<ul style="list-style-type: none"> ●回答者の居住地は約60%が「中央地区」 ●米子市に立地する施設の利用場所は、全ての施設で「中央地区」が大半を占める ●中心市街地の将来像は「日々の暮らしに必要な店舗等が充実し、買い物などに便利なまち」が最も多く、次いで「医療や保険・福祉、スポーツ施設などが充実し、誰もが健やかで安心して暮らせるまち」が望まれている（若い世代では、「働く場があるまち」や「賑わいがあるまち」を望む声も多い） ●米子市で今後必要な施策は「高齢者福祉の充実」が最も多く、次いで「持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組」や「移住・定住施策の推進」「低未利用地の有効活用」など（「移住・定住施策の推進」、「子育て環境の充実」は若い世代に多い） 	<ul style="list-style-type: none"> 【観光】 ・中心市街地の情報発信拠点施設整備事業、米子の町家・町並み保存再生プロジェクト、皆生温泉地区街なみ環境整備事業 【土地利用】 ・市街化調整区域の規制緩和（都市創造課、建築相談課） 【賑わい創出】 ・まちなか空き家活用プロジェクト、空き家活用プロジェクト「わだや小路」事業、空き家情報バンクの整備、元町パティオ広場管理運営事業、魅力ある商店街づくり事業、よなごまちなかコミュニティ活性化支援事業、彫刻を生かしたまちづくりプロジェクト、にぎわいのある商店街づくり事業、商店街にぎわい復活「市」開催支援事業、角盤町エリア活性化事業、角盤町商店街機能活性化事業、任んで楽しいまちづくりファント事業、まちづくり活動支援交付金事業、米子港周辺整備事業 【産業振興】 ・新たな工業用地の確保に向けた取組
交通	<ul style="list-style-type: none"> ●都市計画道路の整備率は市全体で86.3% ●公共交通の人口カバー率をみると、鉄道が約30%、バスが約70% ●公共交通のカバー圏域をみると、市北部の住宅地や淀江都市計画区域内で圏外となる地域がある ●将来的に高齢化の一層の進行により、運転免許の返納等が進み、公共交通を必要とする高齢者の増加が予測 	<ul style="list-style-type: none"> ●米子市に立地する施設までの主な移動手段は「自家用車」が大半を占めるが、「介護・福祉施設」では「送迎車・タクシー」が、「地域活動や市民活動の場（公民館）」では「徒歩」や「自転車」もみられる 	<ul style="list-style-type: none"> 【観光】 ・今日、どこ行こう？乗る人すべてに感動を！まちなかを風を感じながら走ろうよ！事業、レンタサイクル事業、加茂川・中海遊覧の運航 【交通】 ・高規格幹線道路等の整備促進、米子市交通バリアフリー基本構想、駐車場管理運営事業（万能町及び米子駅前地下駐車場）、米子駅前簡易駐車場管理運営事業、循環バス（だんだんバス）運行事業、米子駅南北自由通路等整備事業、橋りょう補修事業、市道安倍三柳線改良事業、市道上福原東福原線改良事業 【賑わい創出】 ・久米町末広町通り線整備事業、米子駅北広場ウォーカブル推進事業、角盤町周辺地区歩いて楽しいまちづくり推進事業（ウォーカブル推進事業）、米子駅周辺地区歩いて楽しいまちづくり推進事業（ウォーカブル推進事業）、
都市機能・居住環境	<ul style="list-style-type: none"> ●都市計画公園は供用率は39.2% ●米子市の公共建築物の多くはS44（1969年）からS58（1983年）にかけて建設されており、今後は多くの建築物の更新時期を迎える ●市街化区域内において、都市機能の人口カバー率は概ね90%以上と高く、市街化区域のほぼ全域をカバーしています ●都市機能施設は市街化区域内で利便性が高く、特に米子市役所付近の中心市街地ではその施設数が多い ●事業所数や従業者数も中心市街地付近で多い 	<ul style="list-style-type: none"> ●住み替え意向については、「住み続けたい」が約70%で、その理由は「住環境に満足」や「日常の買い物施設の充実」、「高齢でも暮らしやすい環境が整っている」 ●一方、住み続けたくない理由としても「日常の買い物施設が充実していない」が挙げられている（「その他」や「いずれは親・子世帯と同居・近居したい」も比較的多い） ●米子市に立地する施設の利用頻度について、週3回以上は「食料品、日用品店など」や「職場・学校」、月1回程度は「飲食店」や「医院・診療所」、「郵便局や銀行など」、年数回以下は「洋服店、家電量販店、家具店」、「病院」、「行政サービス窓口」など ●市内にないと困る施設と徒歩圏（800m）にないと困る施設は、どちらも「食料品、日用品など」が最も多く、次いで「病院」、「医療・診療所」、「郵便局や銀行など」も上位となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 【医療・福祉】 ・高齢者地域コミュニティ支援事業 【スポーツ・健康】 ・新体育館整備事業、フレイル対策拠点事業 【学校・教育】 ・仕事の種（サイズ）づくりなど産学連携研究への支援 【観光】 ・米子城・魅せる！プロジェクト事業、米子城跡整備事業（旧史跡米子城跡整備事業） 【公共施設】 ・新生米子市立図書館の運営、公会堂利用促進事業、山陰歴史館整備事業、アスベスト撤去支援事業、バリアフリー改修推進事業、バリアフリー環境整備促進事業、西部総合事務所新棟・米子市靴町庁舎整備等事業 【上下水道】 ・排水路新設改良事業、下水道広域化・共同化計画、米子市公共下水道ストックマネジメント実施計画（処理場、ポンプ場）・（管渠）、米子市公共下水道整備事業
経済・財政	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所数・従業者数は近年減少傾向 ●農家数はH12とH27を比較すると、約40%減少 ●商業（小売業）は近年増加傾向にあるが、H6とH28を比較すると、商店数は約半減 ●H22(2010年)とR1(2019年)の歳出決算額を比較すると、高齢化に伴い福祉に関する費用(民生費)が急激に増大しています 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在の住まいから住み替えを行う場合に求める支援は、「住み替え先の住宅購入費（リフォームや増改築を含む）に対する支援」や「現在居住している住宅・土地の売却・除却などに対する支援」 ●なお、住み替え意向について「引越したい」と回答した方は「転居に伴う費用に対する支援」や「住み替え先の賃貸住宅などに対する支援」を望む声も比較的多い 	<ul style="list-style-type: none"> 【産業振興】 ・情報通信及び事務管理関連企業立地促進補助、創業された方応援します事業、地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業、まちなか振興ビジネス活性化支援事業、地元企業の工場等の新増設・新規雇用への支援、中小企業の振興に資する制度融資の実施、弓浜地域における農業基盤整備・荒廃農地対策の推進、農商工連携・6次産業化の推進
災害リスク	<ul style="list-style-type: none"> ●市の東部や南部に土砂災害危険箇所等の土砂災害リスクが分布 ●市の中部やJR境線の北側等の広範囲に洪水による浸水想定区域が分布している ●市の沿岸部に津波による浸水想定区域が分布している ●米子市役所付近で、地震の際の液状化危険度想定が高い ●避難所等のカバー圏域をみると、市街化区域の北側や日吉津村東側で空白地帯となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害の可能性のあるエリアの今後の方向性については、居住または都市機能を抑制するより、現在の居住の維持を求める割合が多い（南部地区では「可能な限り居住を抑制」の割合が比較的多く、淀江地区では「住民の判断を尊重すべき」の割合が比較的多い） ●重視すべき防災・減災対策（ハード対策）は「河川浸水の対策」が最も多く、次いで「地震の対策」、「土砂災害の対策」など（南部地区では「土砂災害の対策」が、弓ヶ浜地区では「地震の対策」（津波の対策）がそれぞれ多い） ●ソフト対策は「行政機能の維持に向けた取組」や「危険情報の発信」、「防災に関する計画づくり」、「防災意識の啓発」など 	<ul style="list-style-type: none"> 【防災・減災】 ・震災に強いまちづくり促進事業、木造住宅耐震診断促進事業（無料診断）、がけ地近接等危険住宅移転事業
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客数はH29（2016年）までは減少傾向であるが、以降は増加に転じる（一方で、県外客は減少傾向） 	—	<ul style="list-style-type: none"> 【観光】 ・コアな米子の魅力の発掘・発信、城下町米子観光ガイド

課題の方向性（案）

課題① 人口減少・少子高齢化の更なる進行

- 人口減少や少子化の進行を抑制するため、子育て世代や若い世代等の移住・定住促進が必要
- 高齢化社会に対応した福祉・医療や買物等の生活利便施設の確保が必要

課題② 良好な市街地環境の維持・活用

- これまでのまちづくりで形成されてきた良質な都市基盤や住宅ストック等を活かした賑わいのあるまちづくりが必要
- 都市のスポンジ化が進行し、都市の活力の低下、景観の悪化、防犯・防災上の危険度の増加等が懸念されるため、空き家等の低未利用地の対策が必要

課題③ 公共交通の維持・確保

- 公共交通での主な移動手段はバスが担うため、バスの維持及び利便性の向上が必要
- 将来的には高齢化が進み、公共交通の必要性が増加すると考えられるため、公共交通ネットワークの見直しが必要

課題④ 都市機能の維持と更なる充実

- 現状の都市機能の利便性を維持するため、既存の施設の集積を活かした都市機能の維持・向上が必要
- 公共施設等の整備・更新を踏まえた誘導施設の設定が必要

課題⑤ 厳しい財政状況と効果的な施策の導入

- 今後も高齢化の進行等により厳しい財政状況が続くことが予測されるため、官民連携等の効率的な都市経営が必要
- 生産年齢人口が減少していく中で、だれもが働きやすい環境づくりや産業の育成等、誘導施策と併せた経済の活性化に向けた取組が必要

課題⑥ 災害リスクへの対応

- 災害リスクを踏まえた誘導区域の設定や防災・減災施策の強化（防災指針）が必要
- 避難先の確保や市民へのリスクの周知など、ハード対策とソフト対策の充実が必要